

はぐくみ会だより

第 33 号

平成24年 4月 1日

所蔵作品紹介

(32)



漆工 (41×32cm)

「鹿」 山崎 覚太郎 作

山崎覚太郎は明治32年(1899)富山市東岩瀬町で生まれている。3歳の折に母を亡くした。大正8年(1919)に本校の前身である県立工芸学校漆工科髹漆部を卒業。同13年に東京美術学校(現・東京芸術大学)漆工科を卒業したが、この年すでに、宮城県より委嘱され天皇陛下へ献上するための「六曲屏風」を制作している。この後も、皇室御用達の品を幾度か手掛けている。翌年より同校助手となり、後年44歳まで教授として後進の育成に努めた。

昭和2年(1927)第8回帝展に「化粧台」を出品し初入選。以後、9回、10回、12回展で特選、同6年の13回展より無鑑査となる。昭和32年(1957)日本芸術院会員。同41年文化功労賞受賞。同44年 社団法人日展理事長。同49年会長。まさに日本工芸界の重鎮としての不動の地位を築いた。氏の偉大さは、「用」と「美」を兼ね備えた伝統的な漆工芸を脱却し、漆工を現代芸術の域に高めたことであろう。一般的に漆工といえば、黒地に蒔絵という概念があるが、氏の作風は、多様な色漆を用い、簡潔で軽妙な図柄と斬新な構図は絵画表現に近いものがある。昭和12年38歳の折にパリへ国費留学されているが、当時の主流であったアルデオ(装飾芸術)運動に大きな影響を受けたものと思われる。

本校美術館では、氏の小品を4点所蔵しているが、その一点が表紙作品の「鹿」である。明快な構図と単純化された形態の中に、親子の鹿の情愛がほのぼのと伝わってくる。享年85歳。

第18回 青井中展

11月17日(木)~

12月4日(日)

青井中展も多くの皆様のご支援とご協力で支えられ、今年度で第18回展を迎えました。県内全ての中学生を対象とした美術公募展として広く周知され、今年は参加校51校、応募作品数734点、うち入選362点となり、平均入選率は49.3%でした。期間中は、中学生をはじめとする715名の来館者があり、盛況のうちに幕を閉じました。

各賞受賞者

青井大賞	西山潤
富山県知事賞	松浦明季
富山県教育委員会教育長賞	古野茉由
最優秀賞	吉田美和
優秀賞	堀川千香
富山新聞社優秀賞	谷崎優香
チューリップテレビ優秀賞	長谷川彩花
優秀賞	上森理道
富山新聞社優良賞	真岸瞳
富山新聞社優良賞	羽乃
富山新聞社優良賞	稲垣乃
チューリップテレビ優良賞	芳島大弥
チューリップテレビ優良賞	高田花梨
特等賞	酒井花梨
佳作	中波花梨
佳作	小川花梨
佳作	福田花梨
佳作	山田花梨
佳作	室田花梨
佳作	神田花梨
佳作	川崎花梨
佳作	釣向花梨
佳作	渡辺花梨
佳作	扇谷花梨
特別賞	山本花梨
特別賞	辻山花梨

●青井大賞
「ピラミッド」 西山 潤君の作品



力強い立体作品である。大きさから作品制作にかかる作者の熱意が伝わってくる。X字形になった全体構成の着想が優れており、着彩も含め古代理建業のイメージを彷彿とさせる。「ピラミッド」の印象を独自の感性で創作した力作である。

●富山県知事賞
「孵化」 松浦 明季さんの作品



生命が誕生する孵化の瞬間をユニークな感性で表現している。生まれ出すものは動物、植物、工業製品、過去未来。大自然と人間が生み出されていく産物を作者の想像力を楽しく広げて創作した作品である。

●富山県教育委員会教育長賞
「小さな階切」 古野 茉由さんの作品



通学路であろうか、身近な風景を素直な視点で表現してあり好感がもてる。特に田圃と階切を正面から捉えた構図がおもしろい。前景、中景の踏切の観察と表現が、広々とした田圃の空間構成に遠近感や緊張感を与えている。

●最優秀賞
「放課後の制服」 吉田 美和さんの作品



さりげなくハンガーに掛けられた愛着のこもったセーラー服を、彫塑用粘土を使って写実的に表現している。作者の一日の学習や部活動に疲れた心の疲労が、そこはかとなく伝わってくるよつである。プロムス色の調も長く着こなしてきた制服の歴史を語りかけている。

●ピラミッド
砺波市立庄川中学校2年 西山 潤

今回、伝統ある高岡工芸高校の青井中展で大賞をいただき大変嬉しく思います。この「ピラミッド」を作るきっかけはもと苦勞しました。部材の発泡スチロールが崩れないよう、上に向かって接着していく作業が特に大変でした。何度も何度も壊れて、その度に接着し直しました。また、彩色では黒を主調とし、細かいところまで塗りを塗りました。その上から金液と銅液を塗り、さらに腐食液を掛け朽ちた感じに表現しました。「ピラミッド」の古びた感じや重厚感が出せたと思います。大賞をもらったのも、顧問の先生や先輩方、部員みんなのアドバイスのおかげだと思っています。これからも、真剣に作品制作に取り組んでいきたいと思います。



見学する中学生



講評会



審査会

卒業課題展

2月25(土)～3月4(日)

「ものづくりを通して」 学校長 池田 尚紀

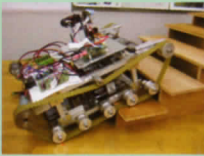
今年度の卒業課題展は、2月28日から3月4日まで青井記念館で開催され、2日の卒業式の後には多くの保護者や兄弟の方々が見に来られました。さらに、同時に隣の高岡市美術館で本校出身のアニメーター松原秀典さんの原画展が開催されていたこともあり、土日には一般の方も大数来館され、それぞれに「素晴らしい」「高校生の作品とは思えない」など目を輝かせて見学されていました。期間中の6日間で、延べ11000人程度の入館者を数えました。

展示された作品は、三年生が「課題研究」の授業を中心に、個人またはグループで一年間をかけて取り組んできたものです。この「課題研究」は、自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図ると共に、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目的としています。

課題発表会では、様々な試行錯誤はあったが最後まであきらめずに頑張ったと述べていました。卒業生諸君には、この経験を生かして、それぞれの道で頑張ってくださいと思います。

各科最優秀作品

電子機械科



探索用ロボットの製作

機械科



競技用ロボットの製作

建築科



つながるいえ

電気科



フォーリング・ライトの製作

デザイン科



氷見の祭りPR
Tシャツの制作

工芸科



入道雲のランプ

「卒業課題に取り組んで」

平成23年度建築科卒業生 城宝 春菜

私は卒業課題で「自然」「家族」「地域」とつながる家を設計し提案しました。

先生方の手を借りた部分もありましたが、3年間で学んだ様々な知識を用いて設計し、自分なりに良い作品を創ることができたと思います。

3D-CADを使いこなし、建物の外観や内観を視覚的にわかりやすく表現し、さらに、風向や日照シミュレーションも取り入れることにより作品に説得力を持たせることができました。

また、コンペに出品するため、限られた条件の中で、設計意図を強くアピールするポイントに配慮しましたが、これらの制作をおし工夫をしていく力を身に付けることができました。

これからも高校で学んだことを忘れず、より良い建築を設計できるように努力していきたいと思っています。

第70回 同窓生ギャラリー

一期一会2012展

2001年に第1回展が開催された「一期一会展」も今年で12回展を迎えました。内6回は当美術館で開催されています。

本校デザイン科を59年に卒業された林正人氏が企画を担当され、毎年、富山、石川を会場に20代、30代の若手クラフト作家が集い、魅力ある斬新な作品の発表の場とされています。

今展も、グラフィック、彫金、象嵌、染織、ガラス工芸、銅版画、陶芸、アクセサリーなど多種多様な15ジャンルに19人が出展し、内初出展者も15名と一新されました。

ともすれば、このような企画展も雑貨市、フリーマーケットになりがちですが、林氏が新しい造形、豊かな個性、高品質を標榜するコンセプトのもとに、作品、出展者を厳選され、質の高さをうかがわせる作品が並びました。

平成24年1月29日(日)～2月21日(日)



作品に魅入る工芸科生徒

第71回 同窓生ギャラリー

平成18年度卒業生有志作品展「けいちつの候」

「けいちつの候」展は、平成18年度デザイン科卒業生有志9名が、春をテーマにして26点の作品を展示しました。出展者は、プロを目指す人、創作への意欲が高い人、同級生の作品展と認識している人など様々ですが、それぞれが個性豊かで、若者らしい新鮮な感性の作品を並べました。

なかでも、代表者である河合唯さんの日本画大作「記号化」は、京都の宝ヶ池の湖面の表象にインスピレーションを受けた作品で、古池の持つ奥深い色調で波紋が表現され、大変味深い深い作品でした。

また、井波彫刻で修行中の井野辰弥君は、小品ながらユニークなツバメやカエルの姿態を繊細な丸彫りで表現し、大変女性に人気がありました。高畑未央さんは、五個山和紙に桜の写真をカラープリントするなど新しい技術を用いた構成作品を、他に荒川紗希さん、東海茉莉花さん、村谷香奈さん、片田裕美さん、杉澤美香さんなど多彩な作品が会場を飾りました。

平成24年3月10日(土)～4月8日(日)



河合唯さんと作品

常設展Ⅲ期

12月10日～1月24日

「絵画・工芸(漆工芸・染色)」



山崎格太郎作品

今回の展示コンセプトは、文化功労賞・芸術院会員山崎覚太郎氏の作品4点を中心に、先生の指導を受けた小倉絳梧氏の作品4点他、金田謙三、尾長保、武内信弘、新敷孝弘、宮崎松平、斉藤晴之各氏の作品を展示し、先生の業績を回顧できるようにしました。また、明治27年の創校間もない時代の教職員や卒業生の作品として、初代石井勇助作「山水草花模様茶棚」、寺島弥作作「堆朱塗盆」2点の他、周年記念染織作品や皆朱惣輪と黒惣輪の膳と碗など計40点の作品を展示しました。

常設展Ⅳ期

3月10日～4月8日

「絵画・工芸(陶磁器)・デザイン」

絵画は、今年2月に吉川信一氏が寄贈された130号の油絵「旅の中で 08-1」と、昨年10月に出町睦子氏より寄贈を受けた鶴谷登氏作「KAKU-004 格」の他、道吉勝重氏、頭川徹氏などの洋画、日本画の大作を並べ、大変迫力のある展示となりました。

また、工芸(陶磁器)では、江戸、明治期に制作された染付や七宝による大型の花瓶や鉢、青磁、白磁壺の他、第9代校長、浅野廉作「太陽の当たらぬ世界」、村金平作「二上山より越の湯を望む」の飾皿5点に加え、池上栄一作「瓢形花瓶」、池上猛、塚本武彦、川波太一郎など現代感覚に溢れるオブジェ風の花瓶も展示しました。

今回初公開の作品も多く、当校収蔵品の質の高さと奥深さを示す展覧会となりました。



油絵「門出」の前で

展覧会案内掲示板を新たに設置

当美術館では、3月末に入口に設置してありました案内掲示板を刷新しました。毎年、本校では卒業記念品の寄贈があり、今年度、新看板設置の要望を出していましたが、設置のほごとなりましました。これまでポスターが風雨にさらされ傷みやすかったのですが、新設のものは、ケース収納となりますので、保存も良く大変見やすくなりました。本年度卒業生の皆さんに厚く感謝し、大切に活用していきたいと思えます。



寄贈作品の紹介

◆吉川 信一作

「旅の中で 08-1」(油彩) 本人寄贈



(砺波市在住)

◆西川 潤作

「ピラミッド」(立体) 本人寄贈

(砺波市在住)



催事案内

常設展Ⅰ期

仏教美術作品展 4月14日(土)～7月1日(日)

同窓生ギャラリー

第72回「建築家5人展」

4月14日(土)～5月6日(日)

第73回「堀井 三郎絵画展」

5月12日(土)～6月3日(日)

第74回「泉田 守展」

6月9日(土)～7月1日(日)

7月7日(土)～7月26日(木)

編集後記

今年度の企画展「同窓生ギャラリー」が8展開催でき大変有り難く思います。特に、戦中戦後初期に活躍された富山工業試験場長高多玉雲氏の作品展は、西部金屋地区あけての協力により実現できたことに感謝いたします。

回を重ねた展覧会も含め、今回初めて開催された「佐藤カオル子展」・「荒井仁一展」・「平成18年度卒業生有志作品展」など観覧者から新鮮さと質の高さに大変好評でした。

また、常設展では、これまで公開の少なかった作品や、山崎覚太郎一門の展示なども行いましたが、美術愛好家の方々には高い評価を受け、本校収蔵品の奥深さにあらためて感心されたようでした。

今年度は数多くの入館者があり、加えて、各展では作品の取り合わせにより、展示品がさらにその真価を発揮することをの当たりにするなど、企画者として大変嬉しく思いました。(柴田 記)

編集発行

富山県立高岡工業高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒931-8518 高岡市中川一丁目二〇

TEL 〇七六六二二一六三〇

FAX 〇七六六二二一六三一